



. Y O K O S U K A C I T Y .

歴史遺産 浦賀 再発見！

ペリー来航の地として知られる浦賀は、江戸東京湾を守る重要な地であり、多くの歴史の舞台となってきました。明治以降は、日本の旅客や物流を担う近代的造船業を中心に、日本の高度経済成長期を支えた拠点として繁栄してきた町です。その繁栄の面影を残すレンガ造りのドックや、歴史を感じることができる蔵などの建物が今も残っています。浦賀が栄えたその時代の空気感を色濃く残しているのが浦賀の魅力であり、横須賀の景観として広く知ってもらいたいと思い、今回の景観ニュースでは浦賀の景観をテーマとして取り上げます。

(小幡委員)

● ～繁栄と衰退～ 浦賀の町と浦賀ドックの歴史

浦賀の近代造船業の歴史は古く、今から169年前の1853年(嘉永6年)のペリー来航を機に、江戸幕府が次の黒船来航に備え、浦賀に造船所を設置し、1854年(嘉永7年)日本初の西洋式軍艦である鳳凰丸を建造したことから始まります。

1859年(安政6年)には、日本初のドライドック(当時はまだ仮設的な構造でした。)が完成し、アメリカへ向かう前に咸臨丸の整備が行われています。

その後、1896年(明治29年)に設立された浦賀船渠(株)が、レンガ造りのドライドックを1899年(明治32年)に築造しました。浦賀船渠(株)は、浦賀重工業(株)を経て住友重機械工業(株)となり、2003年(平成15年)に閉鎖されるまで、艦艇や青函連絡船、貨物船、タンカー等、約1,000隻の艦船を建造しました。

日本の現存するレンガ造りのドライドックは、浦賀ドックと、同じ浦賀地区にある川間ドックのみで、貴重な歴史資源です。

・ 日本丸の進水式

浦賀の町は造船の町として栄え、造船所が稼働している当時は、浦賀駅から工場までの間、造船所に勤務する従業員など多くの人が行き交いました。

そんな中、町を一番活気づけたのが日本丸の進水式です。



日本丸進水式



当時の皇太子殿下皇太子妃殿下お帰りの様子

大型練習帆船日本丸は1984年(昭和59年)に進水式が挙行され、当時、皇太子殿下と皇太子妃殿下であられた現上皇陛下と上皇后陛下が浦賀工場を訪れご臨席されました。

工場や浦賀駅周辺は多くの人で埋め尽くされ、国旗の小旗を振る様子が懐かしく思い出されます。

その後工場が閉鎖され、町の賑わいに陰りが見られましたが、2021年(令和3年)3月に、浦賀ドックとその周辺の一部地域が、住友重機械工業(株)から横須賀市に無償譲渡されたことをきっかけに、浦賀の歴史的な町並みを楽しむことができるイベントが企画されているようです。

私が生まれ育ったこの町が、今後は周辺の貴重な観光資源と併せて横須賀市を代表する観光の町として発展することを心より願うばかりです。

(加藤委員)



● 浦賀港西岸遊歩道

昭和の造船地帯の雰囲気がそのまま残されていた神奈川県道208号線の浦賀港西岸の道路ですが、地域住民からは「歩道や街灯がなく、危ない」という不安の声がありました。

現在は、歩行者用ベンチの設置や街灯が設置されるなど、目の前に海を感じる事が出来る遊歩道として整備が進み、地域住民の憩いの場となっています。

今後は、この遊歩道を含め、浦賀エリアを周遊できるスポットとする計画もあるそうです。お天気の良い日には、歴史ある浦賀ドックへ続く浦賀港西岸遊歩道でのお散歩などはいかがでしょうか。

(小菅委員)



浦賀を守る2社の神社 西叶神社と東叶神社

浦賀の町には、港を挟むように東叶神社と西叶神社の2社の神社があります。

もとは、西浦賀に叶神社がありました。江戸期（1692年）に、浦賀村が港を挟んで東と西に分かれると、叶神社は西浦賀に属することになりました。東浦賀ではこれまで信仰していた神社を失ってしまうため、西浦賀の叶神社を勧請して、東叶神社を創建したとされています。

〈 西叶神社 〉

西叶神社は、1181年に源氏再興の祈願が叶えられそうになり、京都の石清水八幡宮を勧請して創建されました。その後、平家が滅亡し、その願いが叶ったことにより、叶明神と尊称されたと伝えられています。

社殿は天保8年（1837年）に焼失しており、現在のものは天保13年（1842年）に再建されました。社殿の彫刻は市の市民文化資産に指定されています。



平成27年～令和2年11月にかけて鳥居新築、銅板屋根葺替、本殿漆・彩色の塗替工事が実施されました。

〈 東叶神社 〉

東叶神社の裏山は明神山といいますが、それは叶明神が祀られているからと言われています。

また、その社叢林（しゃそうりん）は県の天然記念物に指定されています。



東西叶神社には、「西叶神社で勾玉を授かり、東叶神社のお守り袋に入れる。」といったように、両参りすることで完成する御守りがあります。

また、西叶神社の狛犬は左右両方とも口を開けているように見え、東叶神社の狛犬は口を閉じているように見えることから、両神社で対になっているとされています。（鈴木委員）

● 浦賀の渡し体験しました

浦賀駅から久里浜夫婦橋方向へ、右側に西叶神社、左側に海を見ながら浦賀港西岸遊歩道を歩くと、紺屋町のカーブに差し掛かったところに、小さな蔵のような建物が見えて来ます。

そこには「浦賀の渡し」と彫られている古木調で味のある看板がかかった、渡し船の西側の停留所がありました。停留所の中には、ベンチと飲み物の販売機もあり、近年整備された遊歩道を散歩した後の休憩スポットとしても最適です。

停留所でのんびりしていると、渡し船が対岸へ出てしまいました。驚いて、船着き場まで駆けつけると、料金表と渡し船の呼び出しボタンがありました。呼び出しボタンを押してみると、対岸からこちらまで、1、2分程度で渡し船が返って来ました。

渡し船に乗ると、視線が海面と近く、普段とは違う視線の高さから浦賀のまちなみを楽しむことが出来ました。美しい景色を眺める船旅は、あっという間に感じられ、東側の停留所に到着したときには、もうあと2、3回乗りたいと思いました。（山田委員）



● 千代ヶ崎砲台跡

西浦賀の小高い丘の頂上にある千代ヶ崎砲台跡。一度も実戦を経験することなく役目を終えたこの砲台は、数多くある東京湾要塞群を形成する砲台の中でも保存状態の良好さと、近代日本の土木・築造技術の高さを象徴する事から、猿島砲台とともに軍事遺構として初めて国から史跡に指定されています。

敷地内に入るとまず資料館に入り、砲弾の重さを聞いてびっくり。そして重厚なレンガ造り（オランダ積というらしい）の地下壘道や掩蔽部。覗き込んだらとても神秘的だった貯水所などなど見どころがたくさん。

また、3か所ある巨大な砲座跡は圧巻の一言。1か所につき榴弾砲が2つ備えつけられていたそうです。

しかしそれより驚いたのが、当時この砲台跡に備えつけられていたであろう大砲からは標的が一切見えないままに、砲座の左右にあった観測所からの伝声管を通した指示によって標的が教えられ、それをもとに砲撃するようになっていたとの事。

おそろべし近代日本技術。

（志村委員）



● 浦賀エリアマップ



infomation

第26回 都市景観フォーラムを開催します！

今回の都市景観フォーラムは「横須賀 景観と暮らしを楽しむ」をテーマに鋭敏なセンスで横須賀を感じとり、それぞれの方法で表現してきた、①陶芸家の岡崎裕子氏と②YouTuberの奥平眞司氏に、横須賀の魅力的な景観について講演いただきます。

日時：令和5年2月5日（日）
開場 13：00 開演 13：30
終演 16：00
場所：ヨコスカ・バイサイド・ポケット



■ 令和4年度よこすか都市景観協議会会員

□ 正会員 9団体

（一社）神奈川県建築士会横須賀支部 / （一社）神奈川県建築士事務所協会横須賀支部 / ミーズ設計連合協同組合 / （公社）神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部 / （公社）全日本不動産協会神奈川県本部横須賀支部 / 横須賀建設業関連団体協議会 / 横須賀商工会議所 / （公社）横須賀青年会議所 / 横須賀市

□ オブザーバー会員 3団体

神奈川県横須賀土木事務所 / 東京電力パワーグリッド（株）藤沢支社 / 東京ガスネットワーク（株）神奈川西支店

よこすか都市景観協議会会員募集中です！

連絡先：横須賀市 都市部 まちなみ景観課 電話046-822-8377

よこすか都市景観協議会

検索

クリック！

発行：よこすか景観ニュース・HP編集委員会

委員長：加藤雄治 委員：鈴木玲成、志村貴治、小幡純、山田順二、小菅大真、高橋翔太